



長崎市 被爆建造物等

三菱兵器住吉トンネル工場(跡)

見学スペースでは、いつでもご覧いただけます。

(休業日、入場料はございません。)

6本あるトンネルのうち、現在見学できるのは2本(1号、2号)です。トンネル内部は、途中からは掘削されたままの岩肌になっています。トンネル入口の直前で来場者を感知してライトがトンネル内を照らすようにしています。

2号トンネルでは、柵越しに奥の岩肌部分を見ることができます。

※トンネル内の見学は、基本的にトンネル入口の柵越しとなります。柵の内側から見学したい場合は、事前に原爆資料館にご相談ください。8月7日～10日、国連軍縮週間10月24日～30日には、2号トンネルの入口を開放します。(トンネル入口から約8mまで入ることができます。)

<交通アクセス>

JR長崎駅から

- ・路線バス：滑石・時津方面行きに乗車、「住吉」バス停下車、徒歩約15分
- ・路面電車：赤迫行き(系統番号1、または3)に乗車、「住吉」電停下車、徒歩約10分

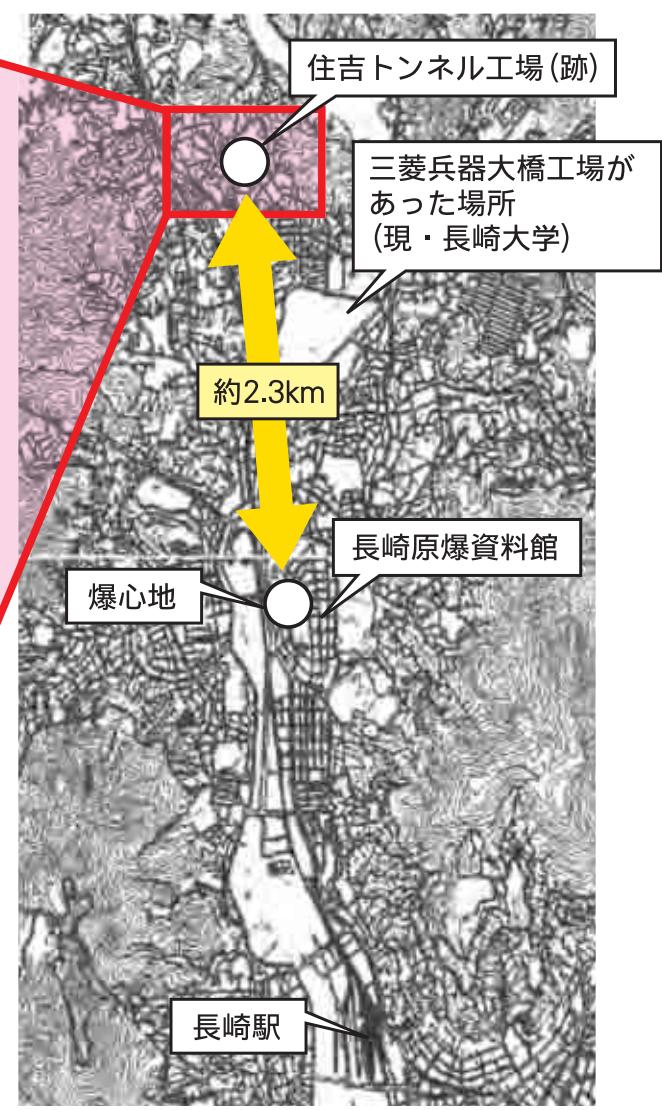
専用駐車場はございません。
公共交通機関等でおいでください。

↑滑石・時津方面



見学者は次のようなマナーを守ってください。

- ・事故や怪我をしないようご注意下さい。
- ・火気を取り扱わないで下さい。
- ・飲食、喫煙、落書き、遊戯、集会等、他の見学者や周辺住人および近隣地権者の迷惑になるような行為は一切行なわないでください。
- ・ゴミはお持ち帰りください。
- ・設備には触れないで下さい。



<三菱兵器住吉トンネル工場とは>

第2次世界大戦(太平洋戦争)末期、三菱重工業株式会社長崎兵器製作所(三菱兵器)の疎開工場として、この場所(住吉付近)から山を挟んで反対側の赤迫付近まで、並列した6本のトンネルが掘られ、交代勤務により24時間体制で魚雷部品の製造が行なわれました。

1本のトンネルは、高さ約3m、幅約4.5m、長さ約300mあります。このトンネルを総称して、「三菱兵器住吉トンネル工場」と呼んでいます。

昭和20年(1945年)8月9日11時2分、長崎市松山町の上空で原子爆弾がさく裂しました。被爆直後には、三菱兵器大橋工場や近隣にあった作業員宿舎等から、トンネル内に多くの避難者がありました。これらをパネルで説明し、トンネル内部を照らして外側から奥の方が見られるようにしています。

原爆被爆当時の状況を伝え、戦争や核兵器の廃絶を願い、平和を尊ぶ気持ちを大切にする場所として、平成22年3月から見学できるように整備したものです。

<被爆と救援活動>

1945年8月9日11時2分、長崎市松山町の上空で原爆がさく裂しました。

トンネル工場では、この日、三菱の工員をはじめ各地からの動員学徒や挺身隊からなる約1800人が魚雷の部品の生産等に従事していました。

また、トンネル工場の稼動と並行して掘削が続けられており、朝鮮人約800人～1000人が従事していました。

トンネルの外にいた人々は、ほとんどが死亡したり、全身にあよぶやけどや重い傷を負いました。

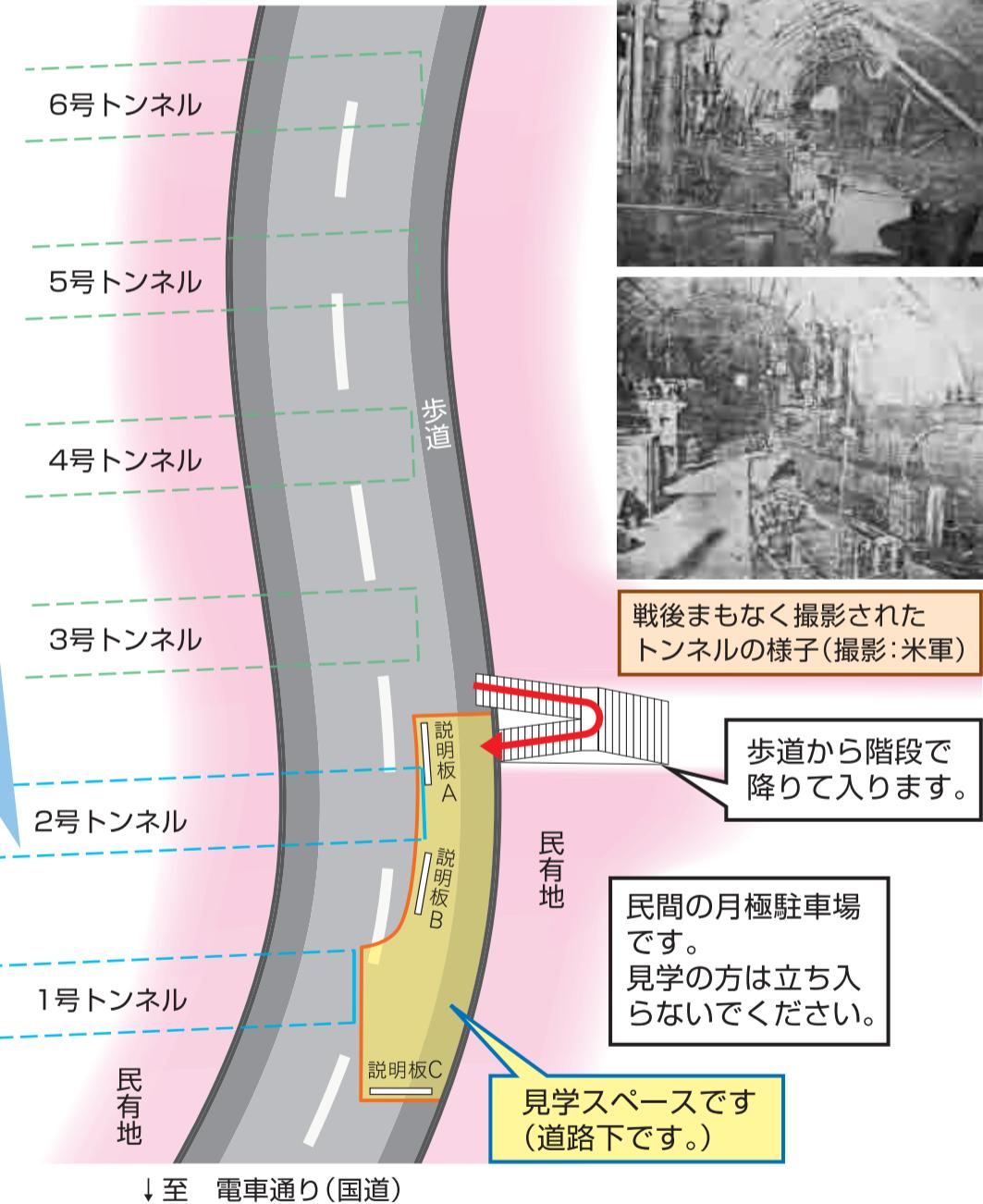
トンネル内にいてかろうじて大きな被害を免れた人々は、原爆を受けた直後からトンネルに避難してきた負傷者の応急手当をしたり、大橋工場等の同僚の救援に行ったりしました。

3～6号は、道路拡幅に伴い、入口を壁で塞いでいます。入口は見えません。



トンネル内部には掘削されたままの岩肌が残っています。

見学スペースに降りていただき、トンネルの入口(1号、2号)、3枚の説明パネル、トンネル内部(ライトで奥を照らします)をご覧いただけます。



<トンネル工場建設の背景>

戦況の悪化に伴い、国内が空襲されるようになってくると、工場疎開を実施し、効果的に分散したり地下移設等をして軍需生産の長期確保と強化を図ることが、当時の内閣で閣議決定されました。

長崎にあった軍事工場等は、この計画を受け、分散して工場の疎開が進められることになりました。

魚雷を作っていた三菱兵器製作所は、大橋工場の機械の一部を、この住吉の山腹に掘られたトンネルに逐次疎開させていきました。工場の運転と機械の疎開、トンネルの掘削は並行して行われましたが、トンネル完成前に終戦となり、その役目が無くなったトンネルは放棄されました。